

私の町—新店

王聖元



<https://zh.wikipedia.org/zh-tw/%E6%96%B0%E5%BA%97%E5%8D%80>

<https://travel.yam.com/Article.aspx?sn=99857>

<https://saliha.pixnet.net/blog/post/344236976>

私の町—新店

新店(Xindian)の名称は清代の乾隆年間、つまり約 300 年前に遡る。昔の人が台湾に来て、当時来た人物が、碧潭の東岸に小屋を作り、雑貨の販売を行ったり、原住民と物品を交換したり与えたりしていた。それで、その中で、周囲が何も無い荒涼とした土地に出来た店ということで新店と呼ばれるようになった。それがこの地域名前の由来なのだ。

また、以前の商店はよく土石流で壊れてしまい、その後再建したことも新店と呼ばれる理由だ。

新店は、台北市中心地へ向かう通勤人口を多数抱えるベッドタウンである。新店の面積は約 120 km²で、人口は約 30 万人である。

新店の気候ほぼ台北と同じで、長期間に高温大雨のような状態である。特に梅雨から夏にかけて、高温多雨の季節が続く。湿度も高く、平均湿度は 80%で、盆地と山の近くで降水量が多い。東北季節風が冬に吹き、小雨が続く。六月から九月にかけて、雷雨と台風雨は多く、降水量は一年中で最も多い時期である。しかし、普通は東南風がよく吹き、涼しく、近くの住民にとって、いい散歩する場所になってきた。

町の体験できること

昔の新店(シンディエン)は田舎なのに、今は田舎では大抵なくなった。以前小学生の遠足の時、畑で遊ぶことができた。畑で食べ物を焼くことができる、言い換えれば畑でバーベキューみたいなものだ。畑で残った不要なものを燃やし、全ての食材は全部アルミホイルで包み、石は上から下の稲の燃料まで~~山~~山のように、焼く予定の食材を囲んでおり、下で火を燃やす。このように焼いたものは一番美味しかったという記憶が残っている。

今は碧潭という一番有名な観光地が残っているだけだ。住宅地不足のために、様々な場所は都市計画からの開発活動に大層影響されており、変わってしまった

それでも、現在も自然環境は少し残っており、今もいい景色が見える。近くの烏來(ウーライ)も温泉に入れるし、物凄い山と山道もある。大型バイクのライダーもよく後ろ山道を走り、たまには少し危険だと思うけれども、きっと気持ちよさそうだ。そのような山の景色を見ながら、ドライブする事もできる。

他の体験できる事には、新店のレストランで様々な料理も食べられる。特に熱炒(ラーチャオ)と小火鍋(しゃぶしゃぶ)はとても美味しい。熱炒は台湾式の居酒屋という意味だ。熱炒店のビールと食事は台湾文化を語るうえで欠かせないものだ。台湾に来たら、外国人にそのような食文化を最初に体験してほしい。それぞれしたら、必ず台湾の一部の文化が体験できるし、もっと私の住んでいる町“新店”に詳しくなるはずだ。

私の町の過去ー現在ー将来

新店(シンディエン)は、台北市中心地へ向かう通勤人口を多数抱えるベッドタウンである。新店の面積は約120km²で、人口は約30万人である。これは新しい住宅地が次々に開発されているためである。

昔の新店は田舎だったのに、今大部分は田舎ではなくなった。以前、小学校の遠足の時、土焼きいもするという畑でバーベキューのような事ができたが、今残っている自然風景は碧潭という観光地の所だけだ。また、他の県の人が次々と台北で働いているになったから、住宅地不足のために様々な場所が都市計画による開発活動に大層影響されており、町の景色も変わってしまった。

新店は、多くの新住民が増えているので、町の人口と交通工事は一層増えてきた。住む人のため、新しい福祉施設を建設しなければならないが、様々な問題も同時に出了。特に、元々住んでいた人と新住民との関係や土地開発の影響など深刻な面もある。政府はこの二つの問題を考えなければならないと思う。民間と企業の間で、政府は懸け橋として、いくつかの場所の開発が一旦終わったら、直接民間と企業と一緒に後のことをきちんと話し合い、環境と人の関係と解決策をどうすればいいのかということを相談するべきだ。

確かに、開発が終わる時が来ないかもしれないが、更にいい町になるという考えが出てきた。今の町のために、自分は努力したい、貢献したいという気持ちになる。